

令和4年度 租税教育活動の選定結果

<最優秀賞>

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
熊 本	○鹿児島（鹿児島） ○小学校6年生 ○のべ11校 31クラス 1081名	<p>【租税教室～税でエールを～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使ったアクティブラーニングを実施。ルールは、政策と予算が記載された7枚のカードを組み合わせ、1億円の予算内で優先したい政策＝誰にエールを送りたいか？を選んでもらうというシンプルなもの。 ・カードという馴染みやすいアイテムと、シンプルなルールを採用したことで、楽しみながら積極的に税について考えることができる環境を構築。また、この仕組みは様々なところで採用され、保護者をはじめ地域の大人たちにも租税教育の輪を広げるための一助となっている。

<優 秀 賞>

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
札 幌	○札幌東（北海道） ○北海道内小学生 ○4クラス 延べ70名	<p>【すべての子供たちに届けたい～日本の未来のための租税教室～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で普及したリモート技術は「教育は平等であるべきもの」に基づき、広い北海道で私たちが目指す「租税教室開催の地域差解消」を実現するひとつの手段だと考えリモート租税教室を導入。北海道だけではなく、全国どこにいても、どの学校でも実施可能なリモート租税教室のシステムを構築。
福 岡	○八幡（福岡） ○市内に住む小学生とその保護者 ○2,000名	<p>【大切な想いをつなげよう～税金と私たちの暮らし～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者へのアンケートなどを通じ、租税教育という単発の非日常的な教育から、家庭でも日常的に税について親子で学べる工夫が必要だと考えた。 ・写真やイラストで分かりやすく工夫を凝らし親子で学べるパンフレットの作成・配布を実施。 ・パンフレットを用いて、税はおもいやりの気持ち、未来の子供たちのために受け継いだバトンを渡す事を保護者の方から伝えてもらうためのレクチャー実施。

<奨励賞>

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
東 京	○王子（東京） ○東京都北区内の小学生 ○122名	<p>【親子租税教室 きたつくす税金川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス拡大防止の観点から、北区内小学生を対象に「税金川柳」を募集し、合計122通の応募。 ・「王子税務署長賞」「北区都税事務所長賞」「王子法学会会長賞」を低学年、中学年、高学年の学年ごとに選考。その他入選作品15本をふくめ、計24作品を表彰。 ・表彰式は時間帯別開催などウイルス拡大防止にも配慮。
東 京	○甲府（山梨） ○小学5・6年生 ○36組の親子	<p>【親子で学ぶ税金教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設を見学して「税」が生活の身近なことに使われていることを知り、「税の使いみち」についても考えられる納税者に将来なってもらうことを期待する事業。 ・新型コロナ対策の観点から、オンラインで「税金教室」及び「公共施設の見学」映像を視聴。 ・後日、参加児童から「税の使いみち」についての意見を提出いただき、興味深い意見をいただいた児童5名に山梨県議会議事堂で、その意見を県知事、県議会議長の同席のもと発表するという機会を設けた。
関東 信越	○水戸（茨城） ○小学6年生 ○11名	<p>【親子で行く税金学習バスツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供達に身近で税金が使われている施設や、税の使いみちを決めている議会を見学してもらい、税のしくみや重要性を学んでもらうことを目的として実施。 ・水戸市内の公共施設（清掃工場・健康増進センター・市民会館・水戸市役所）を見学し、各施設で担当者から見聞きしたことのなかで疑問に感じたことをディスカッションし、実際の議会と同様のシナリオで参加児童が市長へ質問を行う。
仙 台	○気仙地区（岩手） ○小学6年生 ○1クラス5名	<p>【租税教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金は、なぜ必要なのか？どのように使われているのか？どのように集められているのか？など税金の基礎的な疑問は、租税教室開催前にビデオ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を見て確認してもらう。 ・陸前高田市の予算を講師が説明後、児童が市長になったつもりでタブレットを使用して作った思い思いの街を発表。続いて、市内で税金が使われている施設を答えてもらい、義務教育で使われている教育費がいくらなのか、学校内にある物が税金で賄われているかを確認。

<奨励賞>

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
名古屋	○岳南（静岡） ○小学4～6年生 ○各学年3クラス、 合計9クラス 243名	<p>【七夕事業「知っておきたい子どもたちの願い」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供達が自身の目線、想いで税金の使い道、自分が住む街に何が大切なのか、その為に何が必要なのか考える。 ・七夕の短冊に「願い事」として書いてもらう事でハードルを下げる。 ・「願い事」を集計・分類する事でその年の傾向を把握。 ・集計結果を市長へ報告し行政にも気付きの機会を提供。 ・行政から実際の税金の使い道を子供達へ示してもらうことで、自分達の願いが届く・叶う事を知ってもらう。
金 沢	○小松（石川） ○小学5～6年生と 保護者 ○17組の親子 34名 （租税教室：累計 10校393名）	<p>【税金について、親子で一緒に学ぼう!!】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空自衛隊小松基地見学・租税教室を実施。 ・基地見学を通じ多くの人が国土を守るため、整備・訓練・待機をしているところを目で見て理解してもらい、税がいろいろ使われていることを親子で知ってもらう。 ・基地内において租税教室（税金クイズ）実施。 （租税教室の内容） アニメ、税金クイズ、警察署やごみ処理場のスナップ写真等により税収や税の使い道を説明及び租税教育用図書を連年寄贈。
広 島	○松江（島根） ○中学校3年生 ○2クラス76名	<p>【新しい租税共育(きょういく)活動～自分たちで考える自分たちの未来～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講対象の学生だけでなく、部会員自身の成長にも繋げ、部会自体の活性化にも繋がる事業とする。 ・アクティブラーニングを取り入れ、税をテーマに『自分たちで考える自分たちの未来』を想像する機会を創出。 ・部会内でロールプレイングなどを行い、多くの会員が講師を担当できるようにする。 ・オンラインでのリモート租税教室への対応を準備。 ・中学校に事前訪問し、担当の先生との意見交換を行い、より各中学校の要望にコミットした租税教室とする。

<奨励賞>

*掲載順番は局連順です

局 連	実施会・対象・ 参加人員	概 要
高 松	○坂出(香川) ○小学6年生のみならず大人も子供も ○15クラス 413名+α	<p>【明日から出来る「新・租税教室」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも「税の大切さ」を知るきっかけ作り。 ・教科書などで「税金の使われ方」を習っているが、自分たちの住んでいる坂出市で実際にどの場面でもどのように税金が使われているのか、ロケーションを行い自分たちの生活と身近で大切なものであると認識してもらおう。 ・場面場所、閲覧できる人を限定しないYouTubeを使い、「さかいでYouTubeチャンネル」を開設。 ・YouTubeを見て家族や地域の人と「税金の大切さ」や「税金の使われ方」を話し合う機会を作って欲しい。
沖 縄	○那覇(沖縄) ○小学6年生 ○1クラス28名	<p>【こども税金教室体験バスツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが心配されたが、学校等と連携し今年度も開催。 ・学校で税金の基礎知識を勉強したあと、校外学習で税金が使われている活用事例を実際に見て体験してもらおう。 ・近年はさらに改良を加えて、校外学習後のワークショップを実施している。 ・各自が身に着けた知識を共有し、校外学習を通じて得た考えや気づきをグループ討論後、内容をまとめ発表。 ・アウトプットすることで確かな経験として刻まれた。